

第2次 飯山市環境基本計画



飯山市の環境の特徴と課題

信越トレイルなど気軽に里山の自然を楽しむ環境の維持と保全対策。

豪雪対策、雪の利活用。

ごみ減量・資源化の推進。

ギフチョウ・ヒメギフチョウ・オオルリシジミなど、希少生物の保護や生育環境の保全。

市街地や農地を流れる一部河川や湖沼の水質汚濁対策。

国の重要無形民俗文化財「小菅の柱松行事」など、地域文化・歴史的資源の保全と活用。

子どもたちへの環境教育の推進

山間地をはじめ市内全域で見られるごみの不法投棄や、違法焼却の防止対策。

千曲川河川敷ほか、市内全域への広がり心配される外来種の対策。

市内全域で見られる、イノシシ・クマ等による農作物の食害対策。

新幹線開通に伴う騒音等の公害防止や、景観の保全対策。

交通量の増加等、経済活性化に伴う温室効果ガス発生抑制等の地球温暖化防止対策。

飯山の自然環境を活かした自然エネルギーの研究や導入推進。

飯山市内で見られる動植物(一例)



ユキツバキ



ブナ



ナベクラザゼンソウ



トガクシソウ



ギフチョウ



ヒメギフチョウ



オオルリシジミ

写真は「知っておきたい飯山の自然」
(平成24年3月 飯山市)より

飯山市内で見られる外来生物(一例)

外国から入ってきた動物や植物が増殖し、在来生物の生存が脅かされる問題が近年発生しています。このような背景から、平成17年には特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）が施行されました。同法では、もともと日本にいなかった外来生物のうち、生態系などに被害を及ぼすものを「特定外来生物」として指定し、飼養・栽培・保管・運搬・輸入・譲渡等を原則禁止にしています。

ここでは、市内で見られる外来種の一例をご紹介します。



アレチウリ（特定外来生物）
生育速度が速いつる性植物で、在来植物を覆い枯らしてしまふ。千曲川河川敷や長峰をはじめ、市内各地で広がっている。



セイタカアワダチソウ
高さ1～2.5m程度のキク科の多年草で、秋に濃黄色の小さな花を多くつける。根から化学物質を出し、在来種を駆逐する。



オオキンケイギク（特定外来生物）
6～7月ごろに橙黄色の鮮やかな花を咲かせるキク科の多年草。千曲川河川敷などで見られる。



アメリカシロヒトリ（写真は幼虫）
繁殖力が強く、1匹の成虫が1000～2000匹に増えるといわれている。幼虫は食欲旺盛で、樹木の葉を食べ尽くしてしまう。



ウシガエル（特定外来生物）
大型で極めて捕食性が強く、昆虫やザリガニ、小型の哺乳類、爬虫類、魚類までも捕食する。



オオクチバス（特定外来生物）
市内の各湖沼で生息が確認されており、在来の魚を駆逐し繁殖するため、再放流が禁止されている。別名ブラックバス。

飯山市の文化財等(一例)



小菅の柱松行事
(国重要無形文化財)



神戸のイチョウ
(県指定天然記念物)



正受庵
(県史跡)